

令和7年度 第2回<学校運営協議会> 議事録

R7年10月20日（月）13:30～15:30

場所：城北分校 教育相談室

○参観（高等部3年 第7回職場実習報告会） 13:30～14:00

修様：午前中、富士市東分校の学校運営協議会に行き、同じように、卒業後どうするかという話をしてきた。

コミュニケーションは、4～5ヶ月の間にできるようになるものではない。それよりも、思い切り良い学校生活を送ることが一番。

卒業後、何かくじけそうになることが多い。そのときに一番根っこになるような、支えてもらえたような、学校生活でけんかしたけど仲直りできたねとか、しんどかったけど何とかなったよねとか、そういうベースになるものを残りの時間、本当に大事にしていくのが一番かなと感じた。

副校長：学校生活は大事。充実してほしいなと思う。

司会：会長（鈴木修様） 記録：教務（松井）

1 開会あいさつ（会長：鈴木修様）

2 城北分校の取り組み（中間報告）（副校長）

（スライドで写真を提示しながら今年度の取り組みについて説明）

副校長：共生共育に重きを置いてやっている。「地域と地域で」というサブタイトルをつけて、城北工業高校さんも地域の一つと考えて色々な取り組みをしている。

～城北工業高等学校さんとの活動について～

- 4月、最初に合同対面式を行った。開校のときから工業さんとは色々な活動を一緒にさせてもらって、それが伝統として残っていて、とても良い交流がもてている。合同対面式は、城北工業さん全員、分校も全員との対面式となっている。城北工業の生徒会長さん、1年生代表の生徒も話をするが、同じように、分校も生徒会長、1年の代表が挨拶をした。

同じ年代の仲間ということで良い機会になっている。

＜学年間での交流＞

- 1年 LHR交流ボッチャ。1学期にも行い、2学期にも行った。

城北工業は生徒がたくさんいるため、違うクラス（違う科）の友達とボッチャを行った。

分校生徒はボッチャに慣れているので、率先して準備、片付け、仕切りをした。最後はグループ毎円陣を組んで「同年代の仲間」という感じで盛り上がって、掛け声を掛けてよい光景だった。

- 2年 作業交流。1学期に、自主生産の作業を、城北工業の生徒さんが分校に来て、一緒に体験してもらうということを行った。城北工業の生徒に教える場面があって、感想の中でも、その場でも「すごいね」「僕にはできないよ」などと褒められて、よい表情をして交流ができていた。認め合うのはすごく良い。

- ・3年 今年度はこれから。昨年度、研究発表を見せていただいた。城北工業の特徴的な授業を見せていただいて、すごいなと見る機会になっている。

＜行事交流＞

- ・1学期 体育大会。四ツ池のグラウンドで行った。綱引きは悪天候でできなかつた。長縄は体育館で前日に実施。当日は、リレー、借り物競争、交流する場面もあった。リレーは分校一クラスとして競技に出させてもらつていて。
- 分校ダンスを今年から作らせていただいた。競技場からたくさんの方々の声援を浴びて、アンコールももらって、生徒たちからも「応援してもらって良かった」という感想が9割以上書いてあった。
- 分校はオレンジ色のTシャツ。城北工業はクラスTシャツを作つて同じように行つていて。生徒の中には、「僕たちもクラスTシャツ作りたいな」という声があつて、高校生年代の同じ目線で刺激し合えるのは良いなと感じた。

＜避難訓練＞

- ・分校は人数が少ないので、逃げ方が上手ではないかと思う。さつと静かに体制を整えて逃げることができていて。
- 協力し合つてということもある。高校生は力もある。集団の力もある。地域の中で、力が欲しいときには、協力できる。地域の中でも力になっていける子供たちかなと思う。

＜地域 校外学習＞

- ・高1 地域を調べる学習（浜松市内の、自衛隊、公園の散策等）。地域には色々な学ぶ場もあり、交通の便もよく、不自由なく出掛けで学習ができていて。

＜実習＞

- ・現場に行って学ぶ「実習」というところが分校の特徴。
- ・今年度の1年は外での経験は6回。今の2、3年生は7回、卒業までに実習を経験していく。その中で自己理解をして、自分にどんな仕事が合うのか、報告会の中で生徒たちが「立派な社会人」と言つてはいたが、自分たちの力を生かして、どんな風に社会の中で生きていけるかということを学ぶ、社会に出ていく学習。

＜地域に知つてもらう（地域啓発）＞

- ・11月16日（日）城北祭の製品販売が計画されている。今、準備しているところ。城北祭に向けて盛り上がっていっているところ。実習があつたので、今はまだ100%気持ちが向いている訳ではないが、これから頑張つていく。ちらしの配布も計画していく。地域にお持ちしたり、自治会の方にもお世話になつたりする予定。
- ・2月まちなか販売会。6か所で計画中。昨年度の学校運営協議会でも案を挙げていただいて、今6か所で計画をしている。また他にもこんなところはどうかという候補を挙げていただけるとうれしいです。
- ・フェスタ城北11月23日（日）にも販売の場を設ける予定でいる。
- ・自治会の文化展 11月8日（土）9日（日）作品を飾らせていただく。

＜学校紹介の場＞

- ・今週 10 月 25 日（土）オープンスクール開催予定。350 人越えの申込があり、二部制で行う予定。関心を高くもっていただいている。
- ・ホームページ、Instagram の方も頑張っている。Instagram は即時性ということで、その日にあったことをその日のうちにアップするようにしている。年度初めフォロワーは 50 人程度だったが、250 人くらいになり、200 人くらい増えた。他校のことも関心をもって、教えていただいたりして、富士東分校や愛鷹分校もフォローしたところ、フォローバックが広がった。本校の生徒、卒業生、保護者も関心をもち、各企業様がフォローしてくださっている。各所で QR コードでも宣伝したこと也有って関心をもっていただいて増やすことができている。
- ・工業高校に、掲示板を貸していただけないかと相談したところ、デジタルサイネージ（動画が流れているもの）なら可能ではないかと話をいただき、3 か所のモニターに本校の交流校としての紹介を載せていただいている。
- ・城北祭のことで、学校運営協議会でいただいた御意見から、工業に一教室貸していただけすることになっている。PR ブースのようにさせていただけそう。今年度、新しくできそうなこと。

＜今年度からの新作業班＞

- ・今年度からサービス班を 1 班増やした。共生共育、地域ということでも良い取り組みができている。
- ・校内技能検定。オークラアクトシティ浜松からレストランの方に来ていただいてレクチャーしていただいている。機会を設けて技能検定を行っている。
- ・North Café の開催。自治会、工業の先生にも宣伝させてもらっている。自治会の方にたくさん来ていただいている。作業製品の紹介や校内の参観もしていただいている。
- ・清掃、整備の活動もしている。高林住吉市民の森の整備。市民の森を管理されている協会の方にレクチャーしていただき、清掃、整備もさせていただいている。
- ・工業の技能員さんに御指導していただき、工業の敷地内の植栽の剪定、整備も行っている。

たくさんの地域との交流を受けて、実際に体験し、関わることで、地域の目、言葉を実際に感じて、そこから自己理解に繋がり、自分のこと、他者のことも分かって、将来社会に出て行って自分がどうあるべきか、「自分」というものを知ることにとても役立っている。共生共育、地域との繋がりは大切だと感じながら、学校生活を送っている。

3 熟議

① 共生・共育～地域と、地域で～ 地域と共にできること、地域のためにできること

田中様：実習で、本田技研は、昔は全然受けてくれなかった。雇用率が上がったからかもしれないが、びっくりした。

五十嵐 T：昨年度から受けていただいている。

田中様：幼稚園は、採用した場合、市から補助金が出る。年間 100 万近くだったと思う。一人で

も何人雇用しても一緒。今も同じなのか、その制度が廃止されたのかは分からぬが、一度確認するとよいかもしない。

下村様：North Café、楽しみにしている。自ら進んで参加したり、友達を誘ってくれたりしている。文化展に作品を出していただき、感想にも、「本当に素晴らしい作品で関心（感動）している」という言葉を聞く。

杉山様：特ないです。

修様：富士東はできて3年目。初めての卒業生を出すということや、共生ということで何をやっているかというホットな話題をしてきた。

富士東分校が、富士東高校の生徒に、入学前と交流後とで、特別支援学校をどのように感じるようになったかという二つの質問のアンケートをとり、それを Gemini (AI) で分析した。回答における形容詞の出現回数比較で、交流前は、「難しい」、「良い」、「少ない」、「多い」、「楽しい」、「関わりにくい」、「遠い」、「珍しい」、「ない」などが圧倒的多数で、交流後は、「明るい」、「楽しい」、「多い」、「優しい」、「すごい」、「良い」、「ありがたい」などがアンケートに出てきた。自由筆記の文章で生徒たちが感じた言葉。形容詞の中で、2回以上出てきている言葉で「明るい」「楽しい」「多い」「優しい」が、38回、34回、23回。それだけ生徒たちが考えるようになった。

生徒たちの交流で、ランチミーティングではないが、分校の生徒が、本校の生徒の教室にお弁当を食べに行ってはいけないかという話がスタートで、お昼に一部屋解放して、ご飯を食べてもよいという場所を設定し、これからどうなるかというところ。参考になればと思う。

就職も、初めての卒業生なので、残りの5か月、何をしたらよいのかと悩んでいる。防災の関係で、自治会ではどのような取り組みをしているか。富士の方は人口が少ない。自治会の活動に人がいない、若い人がいない。自治会長さんが、とにかく地域に出てきてほしいと言っている。

他の学校の話だが、参考になればと思う。

下村様：ここ2、3年、キーワードは「つながり」。「つながり」をキーワードに取り組んできている。North Café も、生徒も喜ぶ、生徒と地域とのつながり。少しづつ広がってきている。浜松市は744の自治会がある。9月の敬老祝賀会も、住吉は190人の出席。どこもだいたい30～40人の出席。どんなに多くても100人いかないくらい。聖隸病院の大ホールで、浜松市出身の柳家花いちさん、高台中の吹奏楽の皆さんに来ていただいて、皆さん拍手喝采だった。

夏祭りには、聖隸ホスピタルパークに2000人ほど集まった。1000用意した景品もすぐになくなってしまった。なぜこのようなことをしているのかというと、何かあったときには、支え合ったり、助け合ったりできるように。つながり、絆の中で、助け合ったり支え合ったりできる環境ができればよいなと思って取り組んでいる。分校の授業にも、少しづつ協力できればと思っている。

城北工業高等学校の前の道（高台中学生が通う道）少し広げる予定。拡幅できるように。測量も終えている。中学生が登下校するのに十分な広さにこれからなっていく予定。

修様：自治会、平均年齢70歳を超えてる。若者の声、話をする機会がない。意見が聞けない。一緒に受付やったり、何かやるだけですごくよい。在学中からつながっているのがすごく大事。

下村様：静大工学部、情報学部とコラボして、ポスター作りから色々な資料を作ってもらっている。すごく中身の濃い資料になった。学生とコラボしてやるというのは色々な意味がある。

修様：静大と、自治会と、分校と、何かつながりはあるか？

五十嵐T：学院大で販売をやっていた時期はあった。静大とのつながりはない

田中様：静大の教育研究室とは本校が関わっていたことがあった。

修様：浜松学院大学で地域の発達の勉強会で呼ばれた。教員をやられていた（元富士東の分校の副校長をされていた）山崎先生がいらっしゃる。学生と色々なことをやったりできるのではと言っていた。

副校長：チラシの封入作業などもできるので、依頼していただけすると。

五十嵐T：城北工業、理工科大から話があり、今年度直接お話してやらせていただいた。

浜松学院大学のパンフレットも昨年度やらせていただいた。

修様：そういう作業に対しての生徒の反応とか声はいかがですか。

副校長：どうしても入口は教員になってしまふ。依頼の場面や納品と一緒に立ち会うなど、つながりの機会は設けて、作業は一生懸命取り組んでいる。

五十嵐T：やらされるものではなく、きちんと顔が見える人から依頼があって、役立っているというのが分かりやすいので、気持ち的にはできやすい。

修様：防災の話。防災訓練というと、どうしても一番最初に起きたその時の対処になる。それだけでなく、3日間、3週間、どうしたらよいのか？ということも考えていかなくてはいけない。富士東でも、防災教育が難しいなという話も出ていた。11月27日に、東北大震災のときに、学校の生徒の兄弟の方が語るのをオンラインで聞く機会があるとのこと。入り口の部分だけでなく、発災した後の生活の部分にどうアプローチしていくのをどうやっていこうという話をしていた。

下村様：城北小、高台中には、500mlのものが2000本ずつ、カンパンが2000食ずつ。住吉の地域の人数からいくと、1回分で終わってしまう。会館に少しずつ増やしている。トイレの凝固剤や袋も買ったりしている。萩丘小に水洗トイレがある。市の方で順番に設置している。城北小はまだできていない。それがあれば、設置して、囲えば、水洗トイレと同じ状況で使える。食料的にも水的にも課題はある。城北工業高校に聞いたら、カロリーメイト1本、水1本、分校は三日分くらいはあると聞いている。住吉地区は、興誠高校もあるし、浜松短期大学もあるし、もし昼間だと、学生や生徒の分はどうするかと考えたら大きな課題。帰す訳にもいかない。

ここは高台なので、車がどんどん上がってき、動けなくなる。いっぱいになる。

修様：生徒も帰れない、帰せなくなる。そういうことも考えなくてはいけない。PTA、保護者の方からそのような話題は出ているか。震災、防災のようだ。

副校長：防災委員が係である。今年度は備蓄品を見てもらったり、避難階段を見てもらったりしている。全て学校にどのような物が備わっているのか、一覧は出したが、知らない部分もあると思う。

杉山様：関心がない部分で知識が薄いです。

修様：実際、生徒たちのエリアは広範囲。集まってくるような場所になる。この地域は学校もあるし、安全だと思われる。色々考えていかなくてはいけない。

副校長：台風15号のとき、この辺りはそんなに雨のような感じはしなかったが浜松市に警報出ていた。広範囲に渡っているので、地域ごとに名簿を作らなくてはいけないなど、考え

なくてはと話した。

修様：津波が…となってJRが止まってしまったこともあった。意識として「大丈夫じゃないか」と薄らいでいる。生徒たち自身が自分でどうするのかということが重要になる。生徒たちの意識はどうか。

五十嵐T：そんなに高くない。学校としてもそこまで積極的に何か活動しているわけではない。実際のときに自分がどういう行動を取らなければいけないのか、これから生徒、保護者と連携しながら考えていかないといけない。通学路が、どのような状況になるのか、どのような危険性があるのか、川が氾濫、土砂崩れなどの危険の認識をどこまでさせていくかが課題になる。

修様：防災だけでなく、進路も色々な場面で「自分で考える」ことが大事。本校は津波など、切実な問題。本校と分校では温度差がある。絶えず意識は必要だと思う。

その他、卒業生の進路とかはいかがでしょう。

将宏T：どこまで進路先に情報を伝えるべきか。生徒の人数も増えていて、今まで分校は企業就労ということでやってきたが、福祉も視野に入れていかないといけない生徒も増えてきている。比率的にはあまり変わっていない。今まで例年学年で一人くらい。

作業学習面では、販売の形、目的は、検討していかないといけないと思っている。

田中様：西部地区が一番正規雇用してくれる。製造系が正規で取ってくれる。中部とか、製造系が少なくて、小売りとかパート雇用の形態が多い。西部地区は恵まれている。5期生まで見たが、5期生の時に女子が入った。開校当初は男子校のようだった。1期生2人、2期生3人、5期生は少し女子が増えた。5期生の時は51人受けた年もあった。女子の就職がどうしてもパート雇用が多かった。将来を考えると正規雇用させてあげたいが。

将宏T：最近は、身近な仕事ということもあってか、サービス業、小売り業を希望する生徒も多い。雇用形態の話を授業の中でもしているが、現3年だと、正規雇用は3分の1くらい。それ以外はパートかなと。

田中様：交通網がしっかりしていないとという面もある。スズキは正規雇用。3交代もあり。高卒と同じ。製造系は通える子なら正規でというところもあった。製造系はどうしても不便なところにあったりする。自分で行けないとというところがあった。朝もギリギリ、帰りも残業ができないなどがあった。車、オートバイ、自転車など通勤方法を考えてやらないといけなかった。

将宏T：3年生の実態からすると、免許を取れる生徒が何人いるか…。求人票は現在2社。2社とも、できれば車の免許を取得できればとなっている。通勤しやすい場所ではない。

田中様：車だと融通がきく。バスだと融通がきかない。

修様：学校としては、免許の取得の配慮はあるのか。

将宏T：生徒指導課の方で決められていて、求人票の方に記載があった方のみとなっている。

五十嵐T：基本的には、卒業してから自動車学校に通ってくださいということになっている。求人票で会社の方から、通勤に不便な所にあるから、免許を取得してきてくださいとか、心配なのでできればとてほしいということがある。求人票に記載していただければ、冬休みから通い始めて、4月の入社までに取得できるようになっている。

修様：卒業式から3月末までの期間は自分たちで免許取りに行ってよい期間なのか。

五十嵐T：正式には3月31日だが、卒業後であれば取りに行ってよいことになっている。学校が関与することはない。

修様：保護者の方たちの感覚、通信にしようか特別支援学校にしようか迷われたというお話を

以前していたが、進路の話を聞いていていかがでしょう。

杉山様：進路は悩む。保護者の方、皆さん悩まれていると思う。具体的に聞いた訳ではないが、正規、パート、アルバイト、A型、B型、選択の仕方が色々あるので、どう考えていいくか。生徒によって、保護者の考えによって左右されてしまう。

親はいつまでも生きている訳ではない。社会で子供が自立して生きていかないといけないので、社会で自立できるための支援を、保護者もするが、学校の方でもしてもらえると安心。不安に思っている保護者がいっぱいいると思う。

修様：情報が少ない？

杉山様：情報が少ないというか。職場実習、何回かあり、他の学校に比べて2回くらい多いと聞いている。企業側も、相性があつたりするのだと思うが、特別支援学校の生徒を受け入れる体制がある会社から、理解されていない（理解されていないと言うと語弊があるかもしれません）会社まで幅広い中で、生徒も保護者もどう企業を選んでいったらよいかという所に最初ぶち当たる気がする。その情報が、生徒も保護者も把握しきれていないので、選ぶのが不安なのではないか。報告会も出席して見るが、今一つ伝わってこない。漠然としていて具体的でない。生徒の中でも、ざっくばらんに、形式ばった報告会という形でなく、この会社に行ってこうだったなどの他愛のない話（雰囲気が良かったよ、話ができる人が多かったよなど）、仕事面も大事だと思うが、雰囲気とか受け入れ体制とかも大事だと思うので、生徒の中で、もっと気軽に雑談のようにできると、会社を見る目が生徒の中で変わってくるのかなという気がする。

修様：親として、疑問とかは大事な、率直な、貴重な話。

杉山様：生徒も保護者も多分悩んでいる。先生からは、ここはやめよう、合っていない、きつ過ぎるなど、ダメだしされてしまうと、挑戦しようと生徒が思っていても、そこで弾かれてしまう。就職するのに、だぶっちゃいけない（他の子が行くからやめておいて）とかもあるようで、難しい。

修様：諸事情があると思う。シンプルな話でいくと、求人が一人しか取らないとなっているとき、どこの時点で競争するかということが出てくる。悩ましい話だが、そのようなこともざっくばらんに聞いたりしたりできるようになるとよい。

教育、学校は公平性というところがあるって、思っていても言えない、言ってはいけないことがいっぱいある。そういうときに、地域とか外部の人間（第3者）は無責任に色々言える。たくさんの企業で中を見ているので、守秘義務はあるが、情報はもっている。何が分からぬのか、何を知りたいのかをもっとたくさん出してもらえると、答えやすい。学校としてはここまでだが、これは地域の中でここに聞いてもらおうなど、整理ができていくと思う。

来年7月に雇用率2.7%に上がる。交通の便についても、免許取れないと通えないと言う段階ではなくなっていく気がする。会社から通勤バスをどんどん出すとか（湖西、都田、他県はある）、工業団地のところが、皆で組合のような形で、皆でバスを出して運用するなど、色々やろうと思えばやれる。浜松はまだそこまでいっていない。このままでいくと、多かれ少なかれ、企業がアップアップになっていく。今後選択の幅がもっと広がると思う。「雇用しないといけない」という義務が課せられている。もっと配慮しないといけない、体制を整えないといけないというように時代は変わってきている。言つていくことを言って良いと思う。

田中様：大きな会社は相談員置いている。中小企業の場合は、その時に入った時の上司はいるが、

部署が変わったり、上司が変わったりしたときにトラブルになる。最初に入ったときだけではない。その後が大事。実習のときは上手くいって、良かったと思っていたら、上司が変わった、部署が変わったということですぐトラブルになってしまふ。ある程度の規模のところは相談員を5人以上置いている。ジョブコーチさんにも回ってもらっている。その点も保護者に十分理解してもらって、選択の仕方なども知ってもらわないといけないかもしれない。

修様：学校（本校）と、卒業生の就職マップをグーグルマップ上に作れないかという話をしていた。学校がやるとなると、県教委が…と色々あるので、浜松市でくらしえん・しごとえんが事業を受託しているところで、障がい者雇用企業マップを作れないかと準備を始めている。特例子会社、特別支援学校卒業生がいる、〇年以上働いている人がいる、などの基本情報がマップ上に出る、50人以下とか100人以下の中小企業で、製造業はこれだけありますなど、データを入れればマップを作れると思っている。データも、最近はAIでチャットGPTで読み込ませると、グーグルマップで読めるものが作れてしまう。自分の家のそばには、こんな会社があって、障がい者雇用している会社なのだと、特別支援学校の卒業生が行っているかどうかなどが、一目で分かると全然違うと思う。今年度から来年度にかけて、市の方に掛け合って作ろうと話をしている。保護者がほしい情報は何か、長年（5年、10年）務めている人がいるかどうか、特別支援学校の実習を受け入れてくれている所かどうか、企業にとってもマイナスではない。マップに載っている会社だということで宣伝にもなるので。一つの学校でやるのは難しい。ブラック企業ではなく、ホワイト企業。一生懸命やっている、特支の卒業生が5年10年働いている、ここなら通えるかもしれないなど、そのようなものができないかと考えている。」今の若い世代、親御さんは分からぬと思うので、見られるものがあれば皆の役に立つと思う。

田中様：9月に県の労働「山崎という会社」が表彰されていた。何十人も雇用していて表彰されていた。

修様：AIは本当に利口。「浜松磐田西遠地区で、1000人以上の会社で、障がい者雇用というのがホームページ上に出ている会社をリストアップしてください。」「それをグーグルマップで読み込めるようなファイル形式にしてください。」など上手に指示するとできる。

（有料で、ある程度時間はかかるがエクセルシートで出てくる。）そういう面でも、保護者の「こんなこと知りたい」という声が大事だと思う。

将宏T：西遠地区の就業促進と特例子会社との話し合いの中でもマップを作ろうという話が出ていて、特例子会社の連合会がやろうとするという話があった。

本校としては、生徒、保護者が見られるような、「実習先検索」という過去7年間の実習先や地図へのリンクなどの情報が見られる形で用意してあるが、浜松市全域はカバーできていない。

修様：学校は非常にナーバスな資料もある。皆に見てもらえるようにはならないところがある。あくまで学校の内部で見られる資料として、併せてセットで作れるとよいかもしれない。本校の方では、実際、実習受け入れ可とか、断られたなどのシビアな評価も記載がつたりする。

田中様：情報が共有されるようになったのはよい。昔は共有されなかった。昔は、ファーストリテイリングの本社に電話すると、浜松市で、空いている所の情報をくれるので、それを皆で見ていた。

浜松市は何人か雇用はあるのか？

新しくできた清掃工場 プラごみを破る手作業を何人かでやっていて、できるなと思った。

修様：市の方は、短期（2～3年）で会計年度職員としての雇用。1年更新で最大3年まで。

こうした情報もどんどん流していくことが重要。

引き続き、それぞれの立場でできることを考え、やれることをやっていく。

4 閉会の言葉（会長：鈴木修様）

＜学校運営協議会の委員＞

	氏名	ふりがな	役職等
1	鈴木 修 様	すずき おさむ	NPO 法人 くらしえん・しごとえん代表理事
2	大石 芳孝 様 欠	おおいし よしたか	元民間企業 人事担当
3	田中 敏美 様	たなか としみ	元 城北分校副校長
4	下村 哲生 様	しもむら てつお	住吉自治会長
5	神田 春乃 様 欠	かんだ はるの	浜松城北工業高等学校 PTA 副会長
6	杉山 真澄 様	すぎやま ますみ	本校 PTA 会長

＜庶務＞

	氏名	ふりがな	役職等
	園田 一哉 欠	そのだ かずや	浜松特別支援学校長
1	吉澤 奈々絵	よしざわ ななえ	城北分校副校長
2	五十嵐 正広	いがらし まさひろ	高等部主事
3	松井 智恵	まつい ちえ	教務課長
4	鈴木 将宏	すずき まさひろ	進路指導課長

次回 第3回学校運営協議会：2月17日（火）AM9:30～12:00